

平成 27 年度第 1 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 4 月 28 日（火） 18：30 ～ 20：00

【場 所】 望来コミセン みなくる ホール

【出席者】 9 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	○
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	美 馬 康 子	○
委員	大 黒 利 勝		委員	柴 田 志 寿 子		委員	盛 重 栄 司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	
委員	河 野 す み れ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ～ 企画課 本間課長・上窪主幹

支 所 ～ 西田支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・永澤主任・寺内主任

(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 沼倉隊員

【傍聴者】 0 名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流（リラックス タイム）

・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項

・支所等人事異動について

・地域振興基金の活用事業について

5. 協議事項

・厚田複合施設基本構想（案）について

6. その他

・次回会議の日程について

7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。平成27年度第1回目の地域協議会を始めたいと思いますけれども、大黒委員、柴田志寿子委員、築田委員、今委員、盛重委員、吉田委員の6名から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成27年度第1回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： 改めてお晩でございます。もう良い気候になって、皆さんは大変忙しい時期にどんどん入って来ているのに、地域の為に、汗をかきながらボランティアで協議会の出席をしていただいているという事で、大変感謝しております。今日はですね、一応、懸案でありました「道の駅」、「複合施設」ですね、その報告、審議を兼ねて、今日やりたいという風に思いますので、よろしくお願い致します。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・支所等人事異動について（厚田支所 西田支所長、企画課 本間課長 各自口頭自己紹介）
- ・地域振興基金の活用事業について（厚田支所 地域振興課 相原主幹から資料に沿って口頭説明）

5. 協議事項

・厚田複合施設基本構想（案）について

佐藤会長： 審議事項は、皆さん達のお手元に資料が渡っていると思いますけど、「厚田複合施設基本構想（案）」という事で、本編があります。これは、一応、複合施設建設構想策定委員会というところで審議を致しまして、一応、この構想（案）をまとめて、前回、第15回の策定委員会でこれをご承認いただきましたという事で、今日は、皆さん方にこれを見ていただいて、審議をしていただいて、これでもし良ければ、市の方に基本構想を提出するという手順になるという風に思います。それでは、ちょっと説明をさせていただきたいと思います。

まず、1ページをめくっていただきますと、本編の2ページ目に目次が出ておりまして、まず、「はじめ」というのと、二点目には「基本構想の検討経過」、三点目には「複合施設を核とした地域活性化の基本構想」、四点目として「厚田区の年間集客状況の予測」という事で、どの位、「複合施設」として、または、「道の駅」として、入込数というのでしょうか、どの位の人の流入があるのかというのを大体、予測したものと、五点目が「複合施設「道の駅」の管理運営のあり方」とについてという事で、五点まとめてあります。

3ページ目はですね、「はじめに」という事で、一応、策定委員会の座長としまして、取り纏め致しましたので、そのまとめの言葉を最初に、枕詞として付けてあります。

4ページ目からはですね、その策定委員会で審議をした経過説明がそこになされております。第1回目が、平成25年12月7日であります。その右側には検討内容が書かれておりまして、これが1回目から15回目まで概略まとめてあります。簡単に説明を致しますと、第1回目はこれは顔合わせですから、委員の方々にこの「複合施設」の目的、それからその「複合施設」の役割、それから何を検討するのかというような事ですね、検討を開始致しました。で、この策定委員会の委員の選定にあたりまして、地域協議会の委員の皆

さん方にですね、ご提案をして、ご了承を得て、この会議を開催しております。第2回目はですね、1月18日に行われましたけど、これはもうその「複合施設」です。「道の駅」と決まっておりますでしたから、厚田区の「複合施設」ってどういう施設が良いかという取り組みについて、ワークショップを2回位やりました。その結果、皆さん達の色んな意見を出していただきまして、まずは、この「複合施設」の魅力は何なのか、それは正に、厚田区の魅力でありますから、そういうのを皆さんから意見を出していただきまして、118の意見位、皆さん達から出していただきました。それらをまとめまして、幾つかに別けて、これが5ページの第3回目に、そのワークショップの結果をまとめてあります。まずは、厚田は第一の宝は何かと、「食」なんですね。まずは、厚田は美味しい物があるという「食」の魅力。それから「景観」ですね。正に眺めが良い。そういう景観の魅力。それから、都会には無い、厚田ならではの「いやし」の魅力ですね。それから、「教育環境」が素晴らしく整っているというのと、至る所に都会では味わえないような、遊びの環境や空間があるという事ですね。それから、住む環境、「住環境」ですね。そういう衣食住に関わるようなですね、非常にこう基本的な人間にですね、大切な要素が厚田には沢山あるんだという事を皆さんに再発見していただきまして、それをどう見せるか、その魅力をどういう風に紹介していくかという事で、「複合施設」というものの、今度は、建物の中に検討が入って参りました。第4回目がですね、「複合施設」における「集中型」と「分散型」という事を検討致しました。「集中型」というのは、建物を「複合施設」として建物を集中させて行おうというのと、それから、その分散する色々な建物だとか、或いは、厚田にある独特な文化的な遺産だとか、そういう物を分散させて、そこに来る人々が周遊をする、或いは、導線という導いていく、そういう形を取る、どちらが良いかという事で検討しまして、これは石黒アドバイザーからですね、その「分散型」の公共施設とですね、「集中型」の公共施設のメリット及びそのデメリットについて、レクチャーを受けました。これはもうプロですから、日本ばかりではなくて、例えば、フランスだったり、ヨーロッパだったり、フランスの例を挙げていただきながら、そういうその施設を建てる時にはですね、こういうのが良いという、まあ言ってみれば、プロから見たら初歩的なレクチャーだったと思うのですが、そういうのをやっていただきました。それから、今後は、第5回目として、「複合施設」の活かした方、或いは、その使い方ですね。で、「集中型」と「分散型」のメリット・デメリットを探っていきながら、どういう「複合施設」にしたら良いかという事で、これも石黒アドバイザーからですね、金沢21世紀美術館を例に、「集中型」と「分散型」のそれぞれの良いところを取って、そういう施設が作れないかというレクチャーを受けまして、その基本的な建設のそういうイメージを委員の方々が、大体、その検討に必要なイメージが出来上がったという事であります。

それから、次、6ページなんですけど、第6回目、その良いとこ取りの物を一応、イメージとして、その屋台村構想をですね、そういう「複合施設」の屋台村構想をイメージとして作成し、石黒さんはそれに対して、ある程度、建物のイメージを作って説明していただきました。そして、そういうまあ、最初はイメージから入って来たんですが、これは基本構想ですから、基本的に、建物を設計するという段階ではなくて、色々、イメージを膨らませながら、こういう厚田の魅力を発信出来るような建物という事を、次に、第7回のところでは、「複合施設」のコンセプトですね、こういう事を明確にしようかという、コンセプトの明確化。それから、具体的な建設の場所、これをイメージしないと、なかなか建物そのもののイメージが沸いてこないという事で、まずこの辺りを、大体なんですけど、どの辺りに良いかという検討を始めました。で、第8回目はですね、そういう「複合

施設」の機能と運営の手法、或いは、具体的な筋道について検討を開始致しました。で、ここではですね、まだ、決定的な場所の選定という所まではいきませんでした。こういう所に、建てたらどうだろうという、そういうイメージの構想の段階であります。

今度は、第9回目の時からですね、これは8月28日ですけれども、この回から「厚田の十字街を元気にする会」、会長は鈴木日出男氏であります、この「元気にする会」6名がですね、この議論に参加する事となりましたという事で、今まで第8回全部、委員の方々はそれぞれ共通のイメージで、建設の構想を作り上げてきたけれども、全く新しい委員が中に入りましたので、今までの途中の経過説明を一応、親切に致しました。これは二回位に渡って説明したと思うのですが、そこで第10回目はですね、複合施設の「歴史・文化を担う機能」というのと、それから「経済的効果を担う機能」と、「複合施設」の中に大きくこの二つの機能を入れましょうという事になりました。まあ、「歴史・文化を担う機能」というのは、資料室を改装、転換して資料室の機能をそこに持って来るというのと、それから、こだわり隊が第一次産業の物産をそこに売ったりですね、するような経済的効果を担う機能と大きくこの二つの機能をここに入れましょうという事で、ほぼ十字街、元気にする会の皆さん方も、ほぼ了解をいただいたところであります。

11回目はですね、「複合施設」を“核”とした地域活性化の仕組みや、或いは、その連携についての検討を重ねました。これはどういう事かというと、地域活性化という事は、その「複合施設」だけでは、地域の活性化にはならないので、それは、その「複合施設」にたくさんの人が来ていただいたから、その人達をまた、厚田の十字街ですとか、或いは、望来とか、そういう所に人を流していかないとならない。その為には、それぞれの地域で受け皿を作らないといけない。そういう連携ですね。人を集める場所。それから、そこから人を流した時に、それを受け皿として受け入れる地域の連携、これが必要だという検討を重ねました。

その検討の結果、第12回目に、地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」。これは「複合施設」を建てて、これに多くの人達をそこに集めるというですね、正に「ゲート」です。入り口です。こういう形の建物と、それから地域の元気を作る「地域センター型」。で、これは地域にそういう受け入れの箇所を幾つか造るんですね。例えば、地域コミュニティーのカフェを必要であればそこで造るし、或いは、従来からある店がありますから、そこに人を呼び込むような、そういうような地域連携をするそういう方式、これを「地域センター型」ですね。この「ゲートウェイ」と「センター型」の一体的な取り組みについて、その可能性を探る検討を12回から開始致しました。複合施設の検討委員会が行ってきた施設については、「ゲートウェイ方式」。それから十字街の活性化、すなわち十字街を元気にする会の皆さん達については、「地域センター方式」で取り組むという風に大きく別けました。二つの方式は、厚田の活性化という目標は同じであります、他の地域から人を呼び込む「ゲートウェイ方式」と、地域住民の利便性や地域活動の拠点づくりの為の「地域センター方式」は、自ずと方法とその役割が異なります。そこで、両方式は分科会によって検討を重ね、具体性のある計画を策定するという事になりました。そこで、なお、この12回目の時に、この両方式、所謂、「ゲートウェイ方式」と「センター方式」この両方式の実現の為には、財源が必要なんです。石狩市への財源の負担を全部するというのは、ほぼもう、財政難ですから、ほとんど不可能なんですね。そこで、なるべく石狩市への財源負担を考慮して、国土交通省が提案をしております、「重点道の駅」というものに応募致しましょうという事で、この第12回でそれを皆さんに了解を得ました。そこで早速、この「重点道の駅」の応募について、支所の方で意見を取り纏めて、検討、現在まで検討してきた意見を

それに取り纏めて、計画書を提出致しました。それで、次の8ページ目にそれぞれ、「ゲートウェイ方式」と「地域センター方式」それぞれに別れて分科会を行いました。ところがですね、1月30日に「重点道の駅」が選定されちゃった訳ですね。ですから、皆さん達とですね、「重点道の駅」を財政的な面ですね、支援していただく為に提出しますと言った時には、まあ、誰もこれは当たるとは思っていなかったと思うんですね。全国で、その当時は26ヶ所って決まっていたから、これは無理だなあと思ったけど、まあ、一応出しました。幸いかな、選定されましたんで、正に勢いづきまして、それぞれの分科会ですね、「複合施設」の方は「重点道の駅」の構想に向けての分科会、十字街の方は、その人々を受け皿としてね、たくさん来た人達を受ける受け皿として、どういう事をすれば良いかと言う事を検討して参りました。して、第13回、14回はですね、「道の駅」の選定についての報告と、それから、「複合施設」を「道の駅」として、策定し直す必要は無いんですけれども、必要な事を、そこに取り込んでいくという事です。それから、もう一方、十字街の方ですね、「地域センター方式」の方は、地域の活性化に向けて、「朝市」ですよ。それから、市街地への人を呼び込むアイデアや仕掛けをどうやって作っていったら良いかという事の検討を致しました。これは次に説明がありますんで、ここは省略させて下さいという事で、第15回ですね、分科会で知恵を、16回だね。で、15回の分科会を終えて、第16回の策定委員会で一応、この今、皆さんに報告しているのが承認されました。それから次に、そのまとめを、第9ページ目です。「複合施設を核とした地域活性化の基本構想」というところを見てください。一応、検討してきたのは「複合施設」なんですよ。頭から「道の駅」で検討してきた訳ではありません。そこで、「複合施設」は、一応、地域活性化のコンセプトは五つに絞りました。一点目はですね、「近説遠来」という、これはずっと説明して参りましたが、「交流とふれあい」というキーワードでまとめる事が出来るんですが、「近説遠来」、正に、住んでいるこの厚田の人々がですね、喜んで暮らしている。そうすると、遠くから来た、来る人々も、あーここは素晴らしい所だ。こういう所で自分達も住んでみたい、生活してみたい、こんな素晴らしい所でというようにですね、その地域に住まいする人達が、喜んで暮らしていると、遠くから来る人達も、たくさん集まって来るという、これはもう、今から2,500年位前、紀元前、大体300年位前ですね、中国の孔子という人が論語の中で言った言葉ですが、これは正に、この地域活性化、または、政府が言っている「地域創生」というのは正にこれなんですね。地域の人達が喜んで住んでいないと、遠くから来る人達がなかなかその魅力を感じてもらえない。ですから、この交流とふれあいを大切にする「近説遠来」を第一のコンセプトに致しました。それから、次の4点はですね、これはもう正に、地域の創生という事のコンセプトなんですが、人、それからその地域、その土地の風土、それからそこに住む人々の絆、それから当然、最初に言ったように厚田は素晴らしい自然、或いは、景勝、こういうものがあるのですから、自然というものをですねコンセプトに、この地域の活性化、或いは、地域作りを行っていくという事だと思うんですね。ですから、この活性化のコンセプトを忘れずにですね、「複合施設」、或いは、「地域の元気」をここで作っていかうという事で、その図にしたのが9ページの下の部分です。で、ここでちょっと補足説明が必要だなと思うんですよ。心豊かな暮らしってどういう事なんだろう。例えば、人を大切にするという事は誰でも言うんですが、この複合施設はですね、バリアフリーで、ご老人の方、あのお年寄りの方、足腰の不自由な方、それから身体に障害のある方、或いは、そういう方々でも、どんな方でもそこに来て、ゆっくり、ゆったりと過ごしていただけるような、そういう所を作っていく。正に、あそこに行けば本当にゆっくり出来る、ゆったり出来る。それからあそこは

行けばどんな人も大切にしているという事が見るからに解るっていう、そういう他所には無い、あっ、そこにはもう行ったその空気からですね、人を大切にしているんだというのが解る、そういうものを作っていくという事なんですね。それから、地域産業の振興なんですけれども、これも本当は、説明書きがちょっと必要なんですね。今、「地域創生」というのは、みんな地域の産業を興せと言っているんです。私達は地域の産業を興せば、地域が活性化するというのは誰でも言うんだけれども、全国そんな事は無いんですね。これから益々人は減っていくんですよ。それから田舎は益々過疎化するんですよ。これは、誰が見てもそうなんですよ。これを私達の感覚としては、右肩上がりの高度経済成長の時のような価値観を持っては、これからは、これは成り立たないんですね。ちょっとこのところで私が先ほど、風土を大切にしたのは、土地には長い間の伝統があるんですよ。その土地でなければ解らないような、その土地に住まいをし、今、土地を耕してですね、農家の人方二代目になってる、それから、漁業をする人だって二代目になってる。親を引き継いで二代目、三代目っていうその土地を耕す人々、それから私のように知らない所から来るですね、まるで風のようなもんです。その地域にですね、渡ってくる風で、また、吹き、その風が流されて、どっかに流れて行くような、実は流れ者なんです。風土というのは、この土地に土着の人々と、それから他所から入ってくる人達が上手に混ざり合った時に、素晴らしい風土が出来上がるんですね。流れ者がですね、風が、そこにこうかき混ぜてですね、出て行くようでは失敗になりますし、それから風がそこに馴染まないで、その土地から居なくなってしまうたら、これもまた、風土が上手くいかない。ですから、他所から来る人達がそこに、その土地に根付いて、そして、その土着の土と風が混ざり合ったところに、いい風土が出来上がるという事なんですね。そこから、そのそこにしかない産業を興していかなければいけないという事なんですね。ですからこれを、他所からもってきた産業が、本当に良いのかどうかと言う事も、また、考えないといけない。「その風土に合った産業」という事なんですよ。この辺りはちょっと解説が必要かなと思うんで、それはちょっと舌足らずですね、懇切だけここに書いてしまいました。そういう、風土を大切にしたですね、地域産業を振興していこうという事です。それから「相互扶助の精神」ですね。この「相互扶助」というのはどういう事かって言ったら、田舎で暮らせばお金がかからないという事なんですよ。都会は便利なんですよ。便利な分だけお金をかけているんですよ都会は。ですから、お金をかけて便利なところで暮らしたいという人は都会で暮らせばいい。ところが、お金が無くても田舎で暮らせる。そういうですね、田舎暮らしをサポートするって事は、「相互扶助の精神」が無ければ出来ないんですよ。例えば、自分の畑で、投げてしまう畑の肥やしになるような物を、どうだ皆でと言って提供してくれる。そういうものが皆で出来ればですね、田舎はお金をかけなくても暮らせるんですよ。それが田舎なんですね。そういう「相互扶助の精神」という絆を大切にした地域作り、田舎作りと言った方が良いでしょう。そういう物をしていこう。そして自然や景観を後世に残していく。景勝地というのはですね、そこにいる人達が守っていけないと、その景勝は守れないんです。夕日は何十年後でも夕日は沈むんです。でも、この素晴らしい景観で、その夕日を眺めれるっていうのは、そういう景観をやっぱり守る地域の人々がいないと、それは続かないかものなんですよ。と言う事で、ここはちょっと解説が必要なコンセプトであったんですけども、10 ページ、そういう事で複合施設を“核”とする地域活性化の目標、これは前にもお示したように、幾つか、ここでは八点、その活性化の目標を掲げております。この目標に基づきましてですね、先ほど言った、「ゲートウェイ方式」と地域一体型ですね「地域センター方式」、これを、一体型の整備をしていくという“グランドデザ

イン”が必要だという事で、これは、複合施設を“核”としてですね、観光案内所、それから朝市、十字街、海浜プール、それから旧スキー場ですよ、それからキャンプ場、これらをね、どうやって有機的にこう結び付けながら、厚田を訪れる人々が、この厚田巡りの導線というか周遊を作って、そして、なるべく厚田に滞在時間を長くしてもらうようなそういう工夫をしてもらう。或いは、工夫をする。これが、ランドデザインの最初に必要な事なんですね。ですから、もう正に、地域に住む人達が、こういうアイデアを出し合って、自分達が汗をかいて、こういう事をやって受け入れて、そして、なるべく厚田でゆっくりしていただく。そういう滞在時間を確保するような工夫がどうしても必要になるだろう。そしてまた、「厚田の自然」というものをですね、経験、体験してもらう為には、自然豊かな丘陵や、或いは、低い山などを巡る「トレイルランニング」とか「トレッキング」とか、そういうものをこうやっぱり整備をしながら、厚田へ行ったら、こういう事が出来るんだという事を“何年も続けてこれをする”そういうメッカ、すなわち「厚田のブランド」ですよ。これの正に“自然のブランド化”という事をしていく必要があるだろうという事なんです。それから、災害時のですね避難場所、或いは、これから 231 号のですね、冬の一時避難場所としての機能をまた、これ揃える。これは「道の駅」としては、どうしても必要という事です。それからもう一つ、ここで重要な事なんですけども、先ほど言ったように過疎化がどんどん進んでいくんですよ。そして高齢化も進む。これはもう、データを見たらもう明らかなんですよ。そうすると、そういう過疎化が進んで、高齢化が進むと何が必要になってくるかと言ったら、足の確保が必要なんですね。ですから、「コミュニティバス」というものを何とか取り入れたい。「道の駅」ですから、JRの駅というのはご存知のように鉄道の駅ですけども、「道の駅」ですから、この地域のそういう人々の足を確保していく。これからはですね、この 231 号に走っている中央バスも利用者が少なくなると、段々本数が少なくなるんですね。本数が少なくなるから、なるべく足を確保する為に、今度は、石狩市がそれを補助金を出して、その中央バスに対して、お金を支払わないといけないという事なんですけれども、中央バスのあの大型バス、皆さんご覧になったら解るんですけども、一人も乗ってない中央バスが行き来する訳ですね。これは大変勿体無い。ですから、少ない人数になると、コンパクトなバスを、これをコミュニティバスにするんですけども、その時にスクールバスも、或いは、福祉バスも、こういうものを全部ひっくるめて、区域内を循環出来るような「循環バス」こういうのをですね、「道の駅」を拠点にしながら作っていく、将来的にはどうしても必要になるという事なんですね。そういう「デマンド交通」こういう発想もあります。それからですね、「ゲートウェイ方式」による「複合施設」はですね、他の地域からこう、たくさんの人が来てもらう様々な来客を見込んでいるんです。厚田のこの「道の駅」はですね、元々「道の駅」というのは、交通量の激しい所に道の駅を造ると、そこに来る車が、もう自動的に、そのトイレを利用したり、駐車場を利用したり、或いは、休憩をしたりする。これはもう、当然、そこに人の回転が起きてくるんですが、この 231 の通行量はそんなに激しくないんですね。12 時間の通行量で調べたら、一日大体 2,700 台位なんです。ですから、決して多い台数じゃないんですね。ですからそうすると、やはり、この 190 万都市の札幌や色んな所から、厚田の良さを知っていただいて人を迎え入れるっていう事になります。そうしますと、この他の地域からですね、来客を見込み、その来客を十字街だとか、或いは、厚田区全体を周遊するようなですね、工夫や、或いは、その受け入れ体制というものを整備していく必要があるだろう。その為の、こう工夫が先ほど言ったようにですね、厚田でしか出来ない工夫を、これからみんなで考えていく必要があるだろうという事であります。まだまだ色

んな、その、これからですね、小中学校の統廃合もあります。そうすると、空き教室が出来て参りますよね。そういう所の厚田の宿泊施設に、こうリニューアルして、これも、出来ればですね、そういう色々な国の基金や何かを使って、その利活用をですね、やっていくっていうアイデアも、また、工夫も必要になって来るだろう。そういう「グランドデザイン」を作っていく必要があるだろうという事が大事です。11 ページなんですね。「複合施設」を親、先ほどの「ゲートウェイ方式」ですね、「複合施設」を親、そして、十字街を子供です。そういう一体整備をしていくという事ですから、今の説明の厚田に長く滞在していただく、そういう周遊ですね。ものを工夫していくっていうその続きです。それから、その下にですね、「複合施設」に必要な機能、「複合施設」の機能ですね、これは、「複合施設道の駅」ですから、これは休憩機能をどうしても造らないといけないので、24 時間の駐車場と 24 時間のトイレですね。それから情報発信の機能、それから地域連携機能ですね。それから防災機能と、この大きく四つの機能を持たせております。で、今ずっと説明してきたのは、三番目の地域連携機能ってやつですね。歴史・文化のそういう発信をする。それから、道のサービスの拠点としての農産物の直売所とかですね。或いは、レストランですとか、そういうものです。それから、体験型、観光体験型の拠点とする。それから、六次産業の拠点というものです。これは、全道の「道の駅」で、やはりユーザーが望んでいるのは加工品なんですね。一次産品も当然、必要だというんですけど北海道の場合はですね、この冬があったり、或いは、季節によってその農産物がこう、路地物、或いは、ハウス物もそうなんですけど、路地物と言ったら、一遍に出ちゃうんですよ。そうすると、そうやって通年を通してそういうものが欲しいっていう時に、その食品のですね、或いは、販売の製品をこうコンスタントにある程度の量を集めるっていうのは中々難しい。そういうんで、「道の駅」に来るユーザーや何かは、その加工品や何かを含めて望んでいるという事で、この六次産業っていうものもあるんですね。それから交通の拠点、それから地域の振興の拠点としてのイベントですね。それからもう一つは、これは「雪室」なんですけども、これは正に、一次産業の産品をですね、雪室の中で保存しながら新鮮な物を常に提供出来るっていう事、そういう物も考えております。そういうようなですね「複合施設」に必要な機能っていうのは、たくさんこれは構想の段階ですから入れてあります。基本構想でこういう物、でも、これが実際に基本計画になって、シビアにですね、その入込数も含めて、これが本当に経済的ペイするのかどうかという事は、これからの検討の材料になって参りますという事で、ページの 12 ページですという事で、この「複合施設」、「道の駅」はですね、休憩、情報の発信、防災、それから“核”になるのは地域連携、という事になります。これが「複合施設」すなわち、「ゲートウェイ」の方であります。それから、十字街の方に必要な機能としては、こういうものが分科会の中で挙げられております。朝市付近にですね、食事、或いは、調理が出来る施設が必要だと。これは計画しましょう。で、朝市では、今は、魚を捌いて調理をし、そこで食べさせるっていう事が出来ない訳ですね。でも、これは結構要求が多くある訳です。ですから、そういうものをサービス出来るようにしよう。それから、現存する歴史的価値のあるですね建物、建造物を利活用出来ないか。これは、地域コミュニティのですね、カフェにしたりですね。或いは、地域の人々、或いは、お年寄りを含めて集めるような、そういう地域コミュニティの場。そういうものを造る。或いは、その歴史的な価値、或いは、文化的な価値のあるものを、ある程度、手を加えてですね、来た人達に見ていただくというような事。そういうものが出来るように考えよう。それから、十字街でのイベントというのを企画してですね、十字街の活性化、元気を図る取組みを、若者を中心にしてやってみようというような事が出てきておりますとい

う事で、こういう事をですね受け皿として作っていかうという事が、一応、構想として出ております。それからですね、そうやって「道の駅」、「複合施設」にいて、どれ位のお客さんを集客、年間通して集客出来るんだらうという事で、これは、前にも資料として提出されておりますけども、これは、まずは、一つはですね、ロイヤルシップ、或いは、太平洋、ゴルフクラブですね。このゴルフクラブを中心に四つ在ります。それから、パークゴルフ、プラス1ですね。それから戸田墓園ですね、年間四十万人近くが望来の所まで、人々が来ている訳ですよね。このように、来ている人達を、厚田のこの公園のですね、「複合施設」の方まで来ていただけるような、どうするかっていうのは、先ほどの色々なこう工夫がそこで考えられております。そして、以下の場所っていうのは、人数がこう重複してるんですね。以下の場所っていうのは、厚田の厚田公園ですね、それから資料室、それから戸田生家、それから恋人の聖地、展望台、それから公園の駐車場、それから観光案内所、それから朝市、海浜プール、情報発信基地ですねあった、それからキャンプ場。こういう所はですね、人がこう流れておりますから、複合してますから、これは全部、積算してこれだけ来てるとって訳にはいかない。ですから、ある程度の見積りは出せるけども、実数としては数えられないところだらう。で、以上、単純集計、これは単純集計です。平成25年度約68万人、約70万人です。で、国道231号の交通量は12時間、昼間だけです。これは、国土交通省の道路センサスです。平成22年のですけども、別狩で調査した。約2,600台ですね。で、こういうのが大体、集客するだらうという事で見ておりますけれども、次の13ページには、厚田区のマップでですね、望来まで来てくれる上の方ですね、あー、違う違う、下の方ですね。それから、上の方、重複してますけども、こういう人達が来られる。出来ればですね、この下のゴルフクラブに来たり、ゴルフに来たり、パークに来たり、それから、桜の時期、それから8月のお墓の時期、そういう所にですね、戸田墓園、それから石狩霊園、それから札幌霊園という霊園がたくさんありますので、そういう所に来ている人達にも含めて、こちらの方に来てくれるような情報発信、PRや、或いは、魅力、そういうものを作っていく必要があるだらうという事です。で、次のページですねという事で、厚田の訪問客、約実数としてですね、重複も含めて約70万人という事で、地域のアイデアと協力で、交流、或いは、入込数人口を増やしていきましょうという事で、当面、目標は、交流人口20万人、年間を予測しております。で、これは、北海道「道の駅」ですね、道内「道の駅」大体、年間100万人って所があるんですね。そういう所もありますし、年間10万人っていう所もあるんです。正に、「道の駅」ピンからキリなんですね。で、そういう所ですね、厚田の方は、上手くいけば20万人位の入込み数が期待出来るかなあという事です。そこで、これはですね、厚田の場合には、冬場もアイデアを出して、そして、冬の厚田の魅力をですね。これは札幌の人ではなくて、海外から来る人達に、冬を満喫していただくプランも考えているという事なんですね。そこまで考えて、この位の人数ですから、まあ、期待が大き過ぎるかなと思うけども、でも、利潤という事を考えると、この位の数が無いと困る訳ですね。で、次に15ページ目、複合施設「道の駅」の管理運営のあり方という事で、これは、これから具体化していかないとならない。これは一番難しい点であります。ですから、この構想委員会がですね、この管理運営のあり方を、より具体的にという事は出来ませんでした。で、それは何かって言ったら、これ非常に難しいんですね。これは施設のですね、性格から言って、「非収益性」の部門と、それから「収益性」と二つの部門がある訳です。で、「非収益性」っていうのはですね、例えば、これ24時間のトイレや、それから駐車場の除雪も含めてですね、その管理。それから、情報コーナー。これは、道路情報、それから休憩コーナーですね。それから展示室、それか

らその臨時の避難所としてのバックヤード、こういうものはですね、どちらかと言ったら「非収益性」部門です。で、これらの部門に関してはですね、国交省や石狩市の支援を受けなければいけないという風に考えております。で、但し、収益性のある部門です。これはもう、正に、「独立採算制」なんです。こういう収益性のある部門でですね、石狩市に支援して下さいとか、国交省に支援して下さい。これは出来ない相談でありますから、そういう収益するという事をですね、やる為には「第三セクター方式」。三セクと言われている方式にするか、或いは、「株式会社」を作ってですね、この運営をしないといけないか、または、地域の人達をこう巻き込みながらですね、「NPO」という法人をするという。どちらにしても、法人、「NPOの法人」にするか、「公益法人」という形にしていけないといかないかなと。で、そこでは「特産品の販売」、「レストラン」、或いは、「食の体験コーナー」ですとか、或いは、「テイクアウト」ですね。それから、「イベント」や「観光情報」や何かを流しながら、お客様の財布の紐をここで解いていただいて、収益を上げていくという事になります。ですから、そういう管理運営をしないといけないという事で、これは結構大変でありますという事で、これからは、今後の問題という事になります。で、策定委員会ですね、この運営の方向性とですね、それから、「管理部門」と「運営部門」を、出来れば、その分離した形で運営していった方が良いんでないかっていう、まあ、大雑把ですけど、そういう提案をして終わりに致しました。

以上で、大体、策定委員会では了解を得て、今日のこの地域協議会の方へご提案をするという事があります。以上、ちょっと長くなりましたけど、私の方からの説明を終わらせていただきますという事で、どうでしょうか。ざっとこう見ていただいて、何かこう質問があったりですね、それから、ここはどうなのかという事を聞いていただいて、また、今の説明の中で、ちょっとこう欠けているなとか、抜けているなというところの構想の提案を皆さん方にお伺いをして、これを今日、皆さんに承諾を得、これを石狩市の方に提案をしたいという風に思っております。

【質問の無い空白の時間】

そこで一つ、皆さん達にですね、今後、これを例えば、市に上げますよね。意見書として市の方に上げます。そうすると、後は、市はですね、そこで市の方で、この「複合施設」、「道の駅」に関して、新しい部署を設置してくれましたので、それをちょっと説明して下さい。

高田課長： この4月から企画経済部の中に、渉外調整担当というのが出来まして、そこに部長職が1名と主査職1名が配属となりました。主査職については建築専門の方で、この2名で、これから「道の駅」の部分も含めて、本庁サイドとして調整をしていくというような形で進んでいきます。この後の予定なんですけど、今、会長が言われましたように基本構想が、これ承認いただけたら、市の方に提出をして、市の方はそれを受けながら、これをベースにしながら、参考としながら基本計画を作っていきます。まだ、建物の大きさとか、どういう建物にパーツを入れるかというのが絞られておりませんので、その辺をこの構想で色々と提案がありますが、その辺、市の中でも揉みながら、地域と調整を取りながら基本計画を作って、その後、基本設計、実施設計をして、建物の建築に入るといったような形で、今現在は、前にも話したかも知れませんが、30年の連休位にオープンしたいという目標を持っておりますけど、色々、財源的な部分とか国の補助のやりくりもありますので、まだ、きっちりとは決まっておりますけど、早くて30年の5月位で、それ以降にオープンというような事で、今、スケジュールを組みながら、渉外調整担当と連携を図りなが

ら進めているという状況にあります。

佐藤会長： という事ですね、石狩市もこの厚田区の「複合施設」、「道の駅」ですね。これを建設する為に新しい部署を作って、市がそれを支援してくれるという事ですから、これは正に、もう今、高田課長が言ったように、一応、ゴールを平成 30 年のゴールデンウィーク辺りにオープンしようという計画ですから、その計画の尻尾が決まりましたので、逆算しながら基本設計、その前には、基本計画を立てなければならないものですから、そういう事でずっとこう、段取りが進んでいくと思うんですが、一応、地域に、先ほど言いましたようにこの「複合施設」の第一のコンセプトは「近説遠来」ですから、地域の人達がやっぱりこう取り組む。汗水流しながら、そこを何とか地域の活性化を進めていくという事が“核”になりますから、この「基本計画」、「基本設計」に対しても、その都度、この委員会にも提案、途中経過ですね、提案をされながら、私はそれに参加しながら話を進めていくという事になると思うんですよね。ですから、これは「道の駅」が出来上がったら、それで終わりという事ではありませんし、それから、これが通ったからという事では無くて、私達が本当に、先ほど言った、「近接遠来」を具現化する、実現する。その夢を実現するのは、建ってからがスタートなんです。ですから、ここで喜んではいけないんですよ。出来たら、どれ位、地域の人達がそこに関わって、それこそ元気に地域になったかという事が評価の観点なんです。どっか知らない人らが来て、何かあれやっているわでは、大失敗なんですよねという事を肝に銘じて、これから是非、地域の人達と関わっていきたいですね。という事で、支所長よろしく。

何かございませんか。

小山委員： 十字街の活性化対策が盛り込まれているんですけど、多分、十字街を元気にする会の方が声を発して、やったんじゃないかなと思うんですけど、その方達は、具体的にどういうものを建てて欲しいとかという、具体的なものというのは、声になって出てきているんですか。

佐藤会長： いや、あのねえ、具体的にその建物というのでは無くて、先ほど言った、朝市の近くにそういう物を造って欲しい。ただ、どんな建物だとか、そういうものは全く無くて、条件としては、そこで調理が出来るという。そして、そこで簡単な調理をしながら、もし、あの、釧路ですとか、函館ですとか、あんな大げさでは無くても良いけれども、そういうものを提供出来るような事が出来れば良いという事なんです。出来れば、そういう所も色々視察をしながら、自分達でも出来る事。そんな大げさ事ではなくて、自分達で今、出来るところから始めようという事です。結構、具体的なんですよ。だからね、最初の話し合いの時には、誰かにやらせて任せてという事だったんだけど、話し合いをしている間に、どうもそうではないらしいと、この策定委員会が検討しているのは、まず、自分達で出来る事から考えようという事で、何かここで意見を言ってね、俺やるんじゃないで、誰かやれやというのでは、これは話はちょっとまとまらないなという事を、何回かの議論で理解をいただきながら、結果的にはそうやって、こういう建物を建ててくれとか、これ、誰がするか知らないけれども、提案だけはするという事では無いんです。

小山委員： 随分、十字街にこだわっているなという、アンケートとか取って回ったとか。

佐藤会長：　　そうですね。

小山委員：　　凄い十字街こだわっているんで、具体的なものがあつたのかなと思ったんですよね。

佐藤会長：　　でも、やっぱり重要なんですよ。その誰がしてくれるかという事よりも、なるべく出来る事を自分達ですという受け皿を準備しないと、たくさんの人がその「複合施設」に来てくれて、朝市に行つてと言つて、朝市で例えば、買つたら、今までだったらすぐに帰ってしまったんだけど、生ものですから、それじゃ駄目で買ったお土産を先ほど言った雪室や何かで預かっておいて、そして遊んで帰る時にそれを持って帰れるようなね、そういう仕組みや何かを作る。それから、ここ面白い建物だよねという事で、ちょっと中に入ってみようかだとかという物をその受け皿として造るとかね、何かこう来た人達が、ちょっとこう入りたいなとか、ちょっと観てみたいなという物をそれも、なかなか最初から出来ないので、先ほど、言ったように平成 30 年にそれが出来るという事は、それはスタートですから、十字街もこれから徐々にそういうスタートとして、そういうのが出来ていけば良いし、十字街もお年寄りばかりで将来真っ暗というのではなくて、真っ暗な所に何かの光を灯せるような、二代目とか、或いは、違う人達がそこに入り込んで、家をちょっと借りて、何かやってみたいなという人達を招き入れて出来れば良いな。ですから、始めたから良い物ではなくて、そういう気持ちある人達が入ってくれば、元気になると思うんですけれども。

　　よろしいでしょうか、これを市に提案して。

小笠原委員：　　まず、一つ要望なんですけれども、これ、今日承認するという事なんですよ。

佐藤会長：　　はい。

小笠原委員：　　そういう事であれば、ちょっと情報量も多いので、事前にちょっと配ってもらうとか、頭にこう入って来ないので、今、ここで、はい解りましたとはちょっと言えないなというのが一つ。

佐藤会長：　　そうですね。

小笠原委員：　　それと、これがどういうところに出回るのかなと思ひまして。

佐藤会長：　　ええと。

高田課長：　　出回るというのは。

小笠原委員：　　どういう方が見るのかなと。

高田課長：　　とりあえずは、地域、まあ策定委員会を通して、策定委員会が出来て、地域協議会で審議をして、地域協議会で市に上げて、市の方でこれを受けて、これを参考にしながら「道の駅」がある「複合施設」という部分をどういう形にするかというのを練っていくというところになります。ただ、この構想については、当然、地域の方にもこういうような事を

地域では今、考えているよという話しをしていなければならぬなと思っていて、先ほどの事前の打合せの中では、来月の地域協議会の中で、例えば、連合会長さんとかを呼んで、ちょっとサラッとこういう話しをした方が良いんじゃないかというような事もちょっと議題に上がって、その辺も含めてですね、ちょっと、再度、今後、もう少し補正をしながら検討をして、少しずつ、地域にもこういう動きになっているよというのを伝えて、構想として、こういう構想が今、地域協議会を通して出来ましたという事は、地域にも伝えていこうかなという事は考えております。

小笠原委員： それであればね、この「複合施設建設構想策定委員会」の人が誰々かというのは、誰それというその名簿みたいなのは、ちょっとここに欲しいのかなと。誰が考えたんだというのが、解った方が良いのかなと。

佐藤会長： そうだね。

小笠原委員： 十字街の活性化の人間が、途中から入って、その辺もやっぱり何処かで名前も入れて欲しいし、自分があと記して欲しいなと思うのは、これには農協と漁協と商工会とそれは全く挟まっていませんよと。それが解るような形にして欲しいなと思ってます。

佐藤会長： はい。良いですかそれ。

高田課長： はい。

佐藤会長： あと、ご要望も含めて。

これさあ、一応、ざっとは説明したけれども、今、言ったようなある程度の資料をここに付けないと、今の解説だけだと解らない点がありますよね。だから、そういうのを付けてお渡しするか。どうだろう。今、言った名簿だってそうだよな。

高田課長： そうしたら、今、言われたご意見も含めて、資料も含めて、ちょっと一回、整理をして、出来次第、一回、皆さんの所にお届けします。それで、期間を取って、ちょっと見ていただきながら、何かこうご意見とか、ここをもっとこうした方が良いという所をいただきながら、出来れば5月中には支所のここの整理を終えて、市の方へ提出したいなと思ってはいるんです。ちょっと早めに今、整理をして、皆さんの元にお渡し出来るようにしますので、そんな流れでよろしいでしょうか。

佐藤会長： はい。

小笠原委員： こうやってね、「基本構想」というのが出来上がると、それから反れた枝葉みたいな部分は、そんなに融通は聞かないのかなという風にちょっと思うので、これが凄い大事なのかなという風に思うもんだから、これがもう、誰の責任でちゃんとやったのかというのは、やっぱりちょっと知りたいなと。

佐藤会長： そうだよな。じゃあ、そうしましょう。

あとよろしいでしょうか。それじゃあ、まとめて整理をした段階で、一回、委員の皆さま

んにお渡し致します。その時に、いつまでに、ご意見があった時に、事務局の方にその意見を言っていただく、無ければ、次の地域協議会の時に自治連合会やそういう人達も含めて、ご説明をするという事です。それで良いですね。

高田課長： まず、地域協議会の皆さんに見ていただいて、そこで整理が出来れば、ちょっと次に進もうと思っているんです。それで、次の協議会が来月の下旬にありますけど、その時には、自治連合会長さんも呼んで、まあ、こういう形で提出をしたという報告をさせていただくような形を取りたいと思います。そこでまた、自治連合会さんから意見をもらうとなると、ゴチャゴチャになってしまうので、そこは地域協議会でそういう形で、ある程度、承認をもらって次の段階にいったという形で、進めていきたいと思います。

佐藤会長： はい。じゃあそういう事で、締めさせていただきます。よろしいでしょうか。
それでは、厚田区の厚田区の基本構想（案）について、協議を終わらせていただきます。

6. その他

・厚田区あったかニュース第9号について（渡邊副会長より資料にそって口頭説明）

次回会議等の日程について

平成27年5月29日（金） 18：30 ～ 厚田保健センター 多目的ホール

7. 閉会

平成27年5月29日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦